

# 図書館ひろば



## 「オンライン図書館ひろば」開催に思うこと

例年、「図書館ひろば」は、大集会室では古本市、中集会室では図書館利用団体の活動展示と本の修繕の実演、点訳・拡大写本・対面朗読の実演など、視聴覚室では布絵本の展示とおはなし会など、いろいろなイベントを同時開催して、多くの市民の方が楽しめる機会にしてきました。ところが、ご存知のようにコロナの感染拡大で、図書館で人の集まるイベントができなくなりました。

「つなぐ会」の最大の行事である「図書館ひろば」ができないことになって困り果てていた時に、IT に強いメンバーが、オンラインでやったらどうかと提案しました。しかし、一体どうやったらできるのか、皆目見当がつかないままに、試行錯誤しながらプログラムを作っていました。古本市のように、実際に本を手に取りなければいけないようなイベントは、諦めることにしました。

その結果、プログラムとしては、おはなし会 3 つと、点字朗読ということになりました。そのほか、オンラインではないけれど、ホームページで閲覧していただける動画のコンテンツとして、本の修繕実演や、図書館の中のいろいろなコーナー紹介のページなどを準備しました。

コロナ禍の中で、オンラインの試みが多方面にわたって行われています。つなぐ会も、禍を転じて福となすではありませんが、オンラインのノウハウを得たことは収穫でした。会議などは、特定の場所に集まらなくても、それぞれの場で参加できますので、効率的と言えるでしょう。しかし、古本市などがそうであるように、すべてのことがオンラインで解決するわけではありませんが、有効な場面では、活用していくことが、求められていると言っていると思います。 (代表 山本)



## 「オンライン図書館ひろば」報告

2020年11月22日(日)、「第12回図書館ひろば」が開かれました。

ライブ配信では、「おはなしワニーズ」のみなさんが「布えほんおはなし会」、「ブックリぼん」のみなさんが「わらべうた」、渡邊信子さんが「点字朗読」をしてくださいました。

前日のリハーサルでは、立ち位置や声の大きさなど、入念に確認されていました。きっと演じられた方々には不安もあったと思います。それでも「いつも通り、みんなが前にいるつもりでやることにしたんです」とワニーズのみなさんが言ってくださいました。私たちスタッフには心強い言葉でした。当日は、代表の開会挨拶のあと、「布えほんおはなし会」からスタートしました。どのくらいの方がアクセスしてくださるか不安でしたが、開始すぐ20名のかたが見て下さっていました。Twitterでも情報を流していたので、うまくアクセスできない方からの問い合わせはそちらでも受け付けました。カメラ越しに演者の「一緒に声を出してね〜」「今度はみんなの番だよ!」という声掛けが、見ている子どもたちにも届いたようで、「ケーキのろうそくを一緒に消しました。」「おおきなかぶを家でもひっぱっていました。」「手遊びをしながら歌ってました。」という感想をいただきました。最後の渡邊信子さんの「点字朗読」は、普段聞きなれない方も多く、興味を持っていたようにでした。こちらにも「聞きほれてしまいました。」「声がすてきてした。」という声が聞かれました。

もちろん、課題もたくさん出ました。うまく配信にアクセスできなかった方や声が小さくて聞こえなかった方もいらっしゃいました。初めての試みながら、オンラインで伝えることの難しさを感じました。

オンデマンドコンテンツは、相模原市立図書館修繕ボランティアの「ボランティアさんインタビュー」「修繕実演」、桜美林大学図書館読書運動プロジェクト実行委員会(略して「読プロ」)の「読プロ紹介」「市立図書館 YA コーナー紹介」、市立図書館企画「いきい

き読書応援隊 オリジナル POP 作品」、市立図書館員が紹介する「図書館のコーナー紹介」、市立図書館「1年間のイベント」です。修繕ボランティア、読プロのみなさんには、コンテンツ作成のため何回も撮影にご協力いただきました。最初のうち、写されることや、ナレーションに緊張されていましたが、回数を重ねるうちに慣れてきて、修繕のようすや、YA コーナーの魅力を伝える動画が出来上がりました。「図書館職員が紹介する図書館のコーナー」は、お忙しいなか図書館整理日を利用して撮っていただきました。各コーナーの詳しい説明で、図書館の新たな発見がたくさんありました。

オンライン配信は私たちにとってかなりのチャレンジでした。今まで11回「図書館ひろば」を行ってきました。リアルに開催できることを“当たり前”だと思いましたが、決してそれは“当たり前”でなく、とてもありがたいことだったとコロナ禍が教えてくれました。

それでも無事に開催できたのは、オンライン配信をご理解、ご協力くださった、ワニーズさん、ブックリぼんさん、渡邊信子さん、「点字朗読」のBGMの演出をはじめリモート配信でご協力いただいたNPO法人声物園の吉川雅子さん、修繕ボランティアさん、読プロさん、相模原市書店協同組合さん、そして、ご視聴くださったみなさまのおかげです。ありがとうございました。来年は今まで通りの「図書館ひろば」が行えることを願ってやみません。

(中塚)



## “130歳を迎えた日本点字”を希望の未来へつなぐ ～輝き続ける「ブライユ点字」の考案 200年を目指して～

「点字はね、6個の点の組み合わせでできてるんだよ。四角い『1マス』に、縦に3個、横2列の6個の点を書くと、マムメモの『メ』と読むんだよ！書くときは右から。右上の1個で『ア』。右上と真ん中の2個で『イ』。書いてみる？」「うん！やってみる」。2020年の元旦、実家での母と孫（私の甥っ子たち）との一幕だった。「バーバと叔父さんからね」と言って、点字で彼らの名前を封書したお年玉を渡した時のことだ。甥っ子は、母が書いて見せた点字用紙や点字の定規、点字を紙に書く「点筆（てんぴつ）」に興味津々！！小学生間近の彼は、バーバの即席の手ほどきを受けながら、点6個の「メ」をたくさん書いていた。「ア行」にもチャレンジし、あっというまに書き上げ、皆を驚嘆させた。

昨年は、1890年（明治23年）11月1日に、元・東京盲啞学校教員の石川倉次が考案した点字の五十音表記が「日本点字」として制定されてからちょうど130周年であった。この11月1日が「日本点字制定記念日」となっている（特定非営利活動法人日本点字普及協会が申請し、一般社団法人日本記念日協会が認定）。日本点字“満130歳”の当日には記念講演会も行われた\*1。私たち「つなぐ会」でも、130周年を寿ぐ独自企画として、同22日のオンラインでの第12回図書館ひろばで母が出演して「点字朗読」を実施、好評だった。映像やBGMのサポートを受けながら、初のリモート朗読会に臨んだ。点訳者に点訳いただいた「葉っぱのフレディ」を母が“指で触読する姿”も、参加者にご覧いただけた。母はYouTubeチャンネル「渡邊信子の朗読の部屋」で、点字で作品を朗読し発表している。

点字は六つ星になぞらえるほど、6個の凸点の組み合わせからなる「触読文字」である。主に全盲の視覚障害のある人の豊かな学習や文化・社会活動への参加を大いに可能にしてくれる。私も、点字入試や読書、

研究、プレゼンやオンライン会議といった学業から就業場面まで、日常的に点字が欠かせない日々である。

墨字（目の見える人が普段読み書きしている活字）も、音声読み上げソフトのパソコンなどを通じて併用しているが、近年は墨字データの自動点訳によって、点字専用端末のディスプレイ上で読み書きするデジタル点字の恵沢を受けている。点字は、点からつむぎだすあらゆる可能性を秘めた希望の星である。

現在の石川考案の元となった6点点字の生みの親は、フランスのルイ・ブライユ（1809～1852）である。16歳の1825年に考案されたとされ\*2、4年後の2025年にはブライユ点字考案から200年となる。ちなみに、本稿執筆時の1月はブライユの誕生月である（1月4日生まれ）。さて、本年も点字付きお年玉を甥っ子たちに送った。がしかし…。お年玉袋の一つを帰宅途中に落としてしまったらしい。実家でも探したが見つからず、案じていた数日後の1月4日、近隣の知人のご家族から「点字が書いてある落とし物があり、渡邊さん宅のものでは？と思って」と、姪っ子のお年玉袋を届けてくれたのだ！その日はまさしくブライユの誕生日！点字によって発見につながった、点字の存在が輝きを放ったことに、ブライユ氏も喜んでくれていることだろう。拾ってくださった方の点字への深いご理解に心から感謝したい。ブライユ点字考案200周年へ、希望のタスキをつないでいきたい。（渡邊健一）

### ・参考文献

\*1 日本の点字制定130周年記念講演会、主催：日本点字委員会 <http://www.braille.jp/news/20200930.html>

\*2 C.マイケル・メラー著、金子昭・田中美織・水野由紀子共訳『ルイ・ブライユの生涯 天才の手法』日本点字制定120周年記念出版、日本点字委員会、2012年

## 第8回学校図書館学習会 報告

11月7日(土)、講師に学芸大学講師の村山先生をお招きし「学校図書館学習会～ICTを活用した授業への学校図書館支援～」が開かれました。コロナ禍でGIGAスクール構想が一気に進み、児童生徒に1人1台の端末が配られています。講師からGIGAスクール構想が求めている学びの目的を聞き、学校図書館の3つの機能「読書センター」「学習センター」「情報センター」を、これからはどのように展開すればよいかを考えるワークショップを行いました。

3つの授業プランを村山先生が提案。最初簡単な依頼のみで資料支援をグループで話し合います。次にICTを活用した詳しい依頼内容が書かれたプランを受け取り、最初の支援を軌道修正していきました。相模原市立図書館「子ども資料室」の資料を見ながら本を選書し、ネットからも子どもたちが調べやすく信頼性の高いサイトを探しました。さらにパスファインダー作成、発表のための機器準備、児童生徒の作品保管など、他にどのような支援ができるか、細かい点を確認しました。

本を選書することには比較的慣れていますが、web情報を扱うのに難航していました。どのようなサイトを紹介すればいいのか、いくつかのグループで話し合っていました。これからの学校図書館は多様な情報を提供するようになることを実感した学習会となりました。

(中塚)

## 今後のつなぐ会活動

- ・運営委員会 リモート開催
- ・古本市 今年度は中止
- ・Wikipedia タウン学習会  
橋本図書館研修室で毎月開催  
(12月は中止、1月はリモート開催)
- ・相模原市女性学習グループ連絡協議会(連協)  
主催 読み聞かせグループ学習会  
「子どもたちにお話を届けること」3月開催予定
- ・次世代に引き継ぐ淵野辺駅南口周辺のまちづくり  
市民検討会  
12月から延期
- ・2021年度総会 4月開催予定

## ひろばのイラスト

今回の「図書館ひろば」で、ホームページ表紙やTwitterヘッダーに使ったイラストは、相模原市内中学校に在学する生徒の作品です。オンライン開催に華を添えてくれました。



## 編集後記

2020年は予想もしていなかった1年でした。新しい生活様式に慣れてくると、新しいことにもチャレンジする余裕?と、スタッフの「web配信もあるよね」の一言で、気がつけば、「オンライン図書館ひろば」を開催するという大胆な行動に。コロナ禍でなければ経験できなかったことかもしれません。リハーサル時に演者のかたが「テレビで配信している人たちはすごいわね」とつぶやかれていました。大いに同意、と思ったのでした。(Y.N.)

図書館ひろば 第26号 2021年1月31日発行

〒252-0302 相模原市南区上鶴間4-23-3 Tel 090-4947-7147 (代表 山本)

ホームページ <http://toshokan.org/>